

週報 第3250回

会長 上田 秀朗 副会長 渡辺 万寿
幹事 西田 佳郎 SAA 西端 政博

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会(2024年6月21日) 第3250回

■ プログラム

「一年を振り返って」
会長・幹事・SAA

■ 次週のプログラム

6月28日: 最終例会懇親会

■ 今後の予定

・7月5日: 新年度会長挨拶

■ 祝 誕生日

外山 正明(24日)
原 正人(26日)

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

かたつむり

でんでん虫々 かたつむり
お前の頭は どこにある
角だせ 槍だせ 頭だせ

■ 先週の例会



会長の時間 上田 秀朗 会長

皆さん、こんにちは、本日はクラブアッセンブリーとなっております。そもそもアッセンブリーには集める、組み立てるという意味があります。したがってクラブアッセンブリーには本年度の各委員会の活動報告を集め、発表し、本年度のクラブ全体の活動を振り返るという意味合いがあります。

ところで私は年度初め、ロータリー情報の更新にはこだわるといいました。これには訳があります。ここにいる皆さんの中から、将来のガバナーが、少なくともガバナー補佐ぐらいは出るでしょう。そうすると、ここからは完全なフィクションですが、私程度の者が2,3人いるクラブへ訪問ということもあるでしょう。

皆さん、五大奉仕の前身、四大奉仕は1927年、C.L.Pは2000年ですよ。古い論理を盾に、もっともらしいことでも言おうものなら、あえなく返り討ちともなりかねません。そうすると、当クラブからは地区で活躍する人材は輩出できないということになります。

また、意外と思われるかもしれませんが、私は自論を展開したことはありません。日本の著名なロータリアン、田中毅、刀根庄兵衛、鈴木一作らの勉強会のレジュメや、全国各地での講演録をダイジェストにして紹介しているにすぎません。それは日本のロータリアンが何を考え、何をしようしているか、皆さんに知っていただきたいからです。しかも情報というものは最新でなければ意味がありません。ですから、私は会長任期の最後の日までロータリー情報の更新を続けるつもりです。いみじくも、ポール・ハリスは次のような言葉を残しています。

「ロータリーの物語は何度も何度も書き換えられなければならない」

それでは前置きが少し長くなりましたが、本日のクラブアッセンブリー、委員長、理事の皆さん、よろしくお願いいたします。

幹事報告

西田 佳郎 幹事

なし

委員会報告

本日例会終了後、7階の小津で第1回親睦活動委員会を開催しますので、関係者の方はお集まり下さい。（細川 嘉則 次年度親睦活動委員長）

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数44名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
6/14	34名	10名	—	77.27%
5/31	33名	11名	2名	79.55%

■ メークアップ

道正田(6/2 港湾清掃)

榎本(6/11 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

■ ニコニコ箱

- ・本日はクラブアッセンブリー、よろしくお願いいたします(上田)
- ・本日はクラブアッセンブリー、各部門理事宜しくお願ひ致します(西田)
- ・本日は各部門委員長・理事のみな様、クラブアッセンブリー宜しくお願ひ致します(西端)

ニコニコ箱合計	10,000円
累計	665,000円

先週のプログラム

■ クラブアッセンブリー(各部門委員長・理事)



会員増強委員会
高寺 壽 委員長・理事

会員増強委員会は、委員長に私、高寺壽、副委員長に松内俊夫会員、委員は白谷喜世彦、櫻井善章、榎本善夫、中透の各会員です。今年度は、私委員長の怠慢で、一度も委員会を開催しませんでした。

しかし、委員をはじめ会員皆様のおかげで、会員数は期首の41名から3名増の44名となりました。皆

様方のご協力に感謝申し上げます。

当地区は、大和川以南の大阪地域と和歌山県全域から構成されています。活動は泉州地域と和歌山側では大きな温度差があります。その一つがクラブ会員数です。

2024年5月末現在、クラブ会員数が40名以上のクラブは、和歌山地域では7クラブあります：田辺(83名)、和歌山(73名)、和歌山南(70名)、新宮(49名)、橋本(45名)、和歌山東(42名)、海南東(40名)。しかし、大阪側では和泉南(57名)と我が泉大津(44名)のわずか2クラブです。堺、岸和田東等の歴史あるクラブも39名という状況です。



会報・IT委員会
今井 克範 委員長・理事

会報IT委員会の理事委員長を担いました今井克範です。

今期は、副委員長に中田さん、道正田さん、泉谷さん、小門さん、藪野さんの6名で運営しました。

今期の会報IT委員会では、通年の例会運営での写真撮影担当、原稿データのとりまとめ、発刊されたロータリーの友のトピック紹介などを実施しました。例会運営の広報としてのサポートは、なかなか出来ませんでしたでしたが、今期には上田会長のこだわりで公開例会を開催し、そこで写真撮影、動画撮影を担当させて頂き、この例会を記事でロータリーの友に寄稿するという役割を担いました。ロータリーの友事務局からは、寄稿されたからといって必ず掲載されるわけではないです。とコメントありましたが、今年1月のロータリーの友に掲載され、委員会としてひとつ成果を上げることができました。

そして、今期のクラブフォーラムではマイロータリーの登録の斡旋ということも含め、マイロータリーのサイトの内容、個人での活用の仕方、情報シェアなどを行い、身近に感じてもらうことで、マイロータリーの登録について、なかなかフォローはできておりませんでした。が、次年度に対して、継続してマイロータリーの登録数のアップと活用の共有認識をしてもらうことをこの場を借りて、次年度に申し送ります。

会報IT委員会は、年度毎に企画を考え事業を行っていく委員会ではないので、通年の役割である例会運営時の会報発行へのサポートとしての写真撮影などがメインの業務になりましたが、今年、何かプラスワンということで公開例会時の役割担当であったり、ロータリーの友への掲載が近年無かったところとして、今年はひとつの成果を上げることができたのではないかと思います。

次年度も、是非通年の役割に加えてプラスワンとしての何かひとつ独自成果を上げてもらう委員会活動を期待します。

1年間どうもありがとうございました。



親睦活動委員会
瀧谷 達 委員長・理事

本年度親睦活動委員会をお預かりいたしました瀧谷です。

本年度の親睦委員会は計12回の委員会を開催し、各例会、事業の設営をさせていただきました。

例会につきましては、2カ月に1回の席替え抽選を行い、会員同士交流を図れるようにいたしました。

事業につきましては、

昨年6月の最終例会懇親会の設営、抽選会を行い会員の親睦をはかりました。

続いて、昨年12月16日に行いましたクリスマス例会の設営。

会場は本町の大阪エクセルホテル東急にて行い、余興には吉本興業から漫才師のトップシークレットさんをお呼びし、おもしろい漫才を企画、また抽選会を開催し楽しい例会を開催させていただきました。

続いて、5月19日に開催いたしました、春の家族例会です。

京都の東寺にて拝観講和、昼食は美濃吉竹茂楼にて舞妓さん遊び、伏見稲荷大社にて参拝。

東寺では上田会長のお友達でもあります。山田忍良さんに案内、講和をいただき、色々なことが学べて楽しい家族例会を開催することができました。

本年度委員会メンバーも委員会には多数のメンバーが参加、協力してくれましたのでよい事業を遂行できたと思います

また本年度親睦活動委員会の事業は、上田会長の思いをとりいれた事業ができたと思います。

私自身、この親睦活動委員会理事・委員長をさせていただき、多忙ではありましたが、良い経験と良い刺激を与えていただきました。

上田会長ありがとうございました

今回の資料等は、次年度の親睦活動委員会にしっかり引き継いでいきたいと思っております

皆様1年間ご協力ありがとうございました



職業奉仕委員会
前山 佳司 委員長・理事

職業奉仕委員会、委員長、理事の前山です。
第1回職業奉仕委員会を当メンバーの森田さんのボスコリサイアにて18時から行いました。

内容は職業奉仕委員会としての職業見学、研修を行っていきたい。具体的には第1回委員会を開催するにあたり各人からのご意見をいただき、日程・職種等を決めさせていただく。

のち委員会御参集の皆様との交流会を通じて楽しく懇親の場を作りました。

令和5年11月24日14時ロータリー例会終了後14時からレイクアルスター前よりハヤブサ観光マイクロバスにて15名で関西空港へ出向き職業奉仕委員会において職場訪問、見学会を行わせていただきました。本年度ガバナーの谷宗光様の経営なさっている(株)関空エンタープライズの訪問をさせていただきました。

到着時には谷ガバナー、関空エンタープライズの社員様のお出迎えをいただき事務所2Fにて谷ガバナーの独演会を約10分ほど拝聴させていただき、後関空エンタープライズの物流センターを案内頂いた後、今日のメイン会場にお車にて関空の空港場内の案内をいただきました。

本来なら全日空商事の案内(機内、CA様)との対談を期待しておりましたが見学時の全日空の離発着がなく、そこはすべてパスされ物流センターのみの案内となりましたが、機内に積み込まれる荷物等の分けにての搬入の説明をお聞きして、第1・第2滑走路を低速、徐行にて安全運転されておられました。

滑走路を目の前で見ることは無論初めてのことでしたので、空港内の広さに驚いてばかりでした。

また目の前に旅客機が数機止まっておりました。普段ゲートから見る旅客機は小さく見えたが？この年になりますと孫の話になり、孫に見せてやりたいなとつぶやく人が大半でした。

見学はひとまずはここで終わり17時前頃には関空からの帰路につき、レイクアルスターに戻った後は本日の懇親会です。

食事代は5,000円、バス代1,000円をお支払いいただき酒代は上田会長様にごちそうになり20時にて終了となりました。ごちそうさまでした。

以上報告させていただきます。



社会奉仕委員会
根尾 玲子 委員長・理事

今年度、社会奉仕部門の委員長を拝命している根尾です。今年度の活動報告をさせていただきます。

今年度は、5回の社会奉仕委員会を開催しました。内、最終委員会はこれから開催の予定です。今年度の活動の特色としましては、献血活動の回数を1回としました。

まず、9月8日に大阪府赤十字血液センター南大阪事務所課長田中堅司様にお越しいたごき、卓話の時間に現在の献血活動の実態について講話をしていただきました。その知識を得て、令和6年3月26日に献血活動を開催しました。

例年、献血をしていただいた方には、お礼品をお渡ししていたのですが、そのお礼品は会員の方のお心遣いでまかなってききました。一部の方にご負担をおかけするのはどうか？ということになりまして、今年度は、泉大津ロータリークラブで纏めて一括購入し、献血された方に同じものをお渡しするということになりました。品物は、ハンドソープセットに決定しました。例年の献血の方の人数分を確保したのですが、当日は、悪天候でしたので、17個残ってしまいました。その残りは、次回の最終例会の景品に使っていただけることになりましたので、無駄が出なくて、良かったです。

献血活動の結果としまして、悪天候の中でしたが、53名の方にお越しいたごき、44名の方に献血していただきました。内、泉大津ロータリークラブの会員3名に献血していただきました。また、受付担当として会員の延べ40名の方が応援してくださいました。これらは、会員皆様の広報活動やお忙しい中で時間調整していただいたおかげです。ご協力本当にありがとうございました。

次の活動としましては、令和6年6月2日に開催されました港湾美化啓発運動の港湾清掃でした。朝早い活動にも関わらず、16名の会員に参加いただきました。事前に不確定であった森田会員も急遽参加してくださいました。泉大津ロータリークラブの清掃場所は、小松緑道・歩道でした。皆で清掃をすることは、早くきれいになり気持ちの良いものでした。泉大津市では「ごみ拾いSNSピリカ」アプリを活用した清掃活動を推進しているようです。今後これらを活用し清掃に心がけていきたいと思ひます。

一年間の活動は、以上のとおりです。回数は少なかつたようですが、内容の充実した活動ができたと感じています。これもひとえに会員皆様の積極的なご参加をいただいた賜物だと思ひています。一年間ご協力をいただき、本当にありがとうございました。



青少年奉仕委員会
杉本 憲一 委員長・理事

ローターアクトクラブの再結成の要望に対して、どのような方法で新規のローターアクト・メンバーを募ることができるか、委員会で揉みましたが、現状は厳しいので断念しました。

9月のロータリー財団部門の事業としての公開例会に、地元出身の作家・吉村喜彦氏 氏の卓話に合わせ泉大津図書館の書籍コーナーに吉村氏のコーナーを設けてもらう。

青少年の健全な育成・成長に向けて、青少年に関わるイベントの後援・協賛の形で「泉大津ダンス&マルシェ(3月開催)」に金額3万円後援・協賛する。

同じく、給食がなくなる春休みを迎えるにあたり、たくさんご飯を食べてもらえるようにと泉大津市の「こども居場所(こども食堂)」の登録業者のうち、市のこども政策課の協力のもと、食事を提供している9つの子供食堂に春休み前に合計200kgの金芽米(金額10万円)を市に贈呈する。配布に関しては、戎米穀店に依頼する。

この支援に関して、市より感謝状を受け取りました。

以上、青少年の健全な育成・成長に向けての2つの事業に関しては次年度も継続事業としてお願いします。

国全体で少子化の動きが進み、今後の国の成長が危惧されております。泉大津市でも状況は同じです。子供たちが、健康に元気に、そして社会人として、立派に成長するようにロータリークラブとして今後も支援していく必要があります。



ロータリー財団・
米山記念奨学会・グローバル
基金財務
細川 嘉則 委員長・理事

1. 寄付活動

- ・グローバル基金(地区→財団年次基金寄付):
50\$ (44人分、1\$=147円換算)
- ・地区米山奨学会普通寄付 : ¥6,000/人・年間(上期41人、下期44人)
- ・特別寄付: ¥10,000/人

2. グローバル補助金を活用した留学生(岸田隆明さん)の活動

- ・2023年8月18日の例会にビジター参加いただき、スイスの留学先での研究活動についてお話をいただいた。

3. 委員会の開催

- ・第1回(2023.7.21)公開例会開催内容の確認と役割分担
- ・第2回(2023.9.8)公開例会開催の準備状況の共有と当日の役割確認

4. 公開例会の開催

- ・2023.9.22に公開例会として泉大津出身の作家の吉村喜彦さんに「いのちの水」と題して講演をいただいた。ロータリークラブ会員以外に外部より8名の方にも参加いただいた。
- ・本公開例会の内容を広く市民の方々に知っていただくために以下の関連する活動を行った。

①「FMいずみおおつ」で1時間枠の公開放送に出演し、泉大津の思い出を話された。

②泉大津図書館(シープラ)に吉村喜彦さんの著書を寄贈し、地元作家のコーナーに開架。

③泉大津ロータリークラブのホームページに公開例会の写真と動画を掲載。

④「ロータリーの友」に公開例会の様子を寄稿し、掲載された。(ロータリーの友1月号)

- ・2024年2月に事業報告書を地区に提出。

5. 2024～2025年度の地区補助金申請

- ・地区補助金を活用した奉仕活動として、「泉大津市手話言語条例の施行を機会とした手話教室への視聴覚機器の提供」の申請を準備
- ・手話教室の見学(2024.1.9、2024.5.28)
- ・地区補助金申請額を70,000円として、地区へ申請(2024.6.6)

以上

■ クラブアッセンブリーまとめ

本日のクラブアッセンブリー、委員長、理事の皆さん、ありがとうございました。そしてこの一年、ご苦勞様でした。実は今年度は職業奉仕の勉強会しておりません。「喋っている側も聞いている側もわかっていない勉強会はする意味がない」といった張本人は私です。職業奉仕はロータリーの金看板と言われながら、わからない、難しいという会員が多いのが実情です。

わからない、難しいには原因があります。まずは、訳語の問題です。報酬を伴うoccupationと報酬を伴わないvocationが日本語訳されたときには同じく「職業」となることが混乱を呼びます。

また、serviceを奉仕と訳したことも間違いです。Cambridge Dictionaryにはserviceはactivity(活動)とほぼ同義語とあります。そのうえ、ロータリーの職業奉仕の概念は一つではなく、複数あります。これは100年以上のロータリーの歴史の中でいろいろな考え方が取り込まれてきたからです。

ですから、喋る側の拠って立つところで説明が変わるのです。「三方よし」の近江商人の家訓を持ち出すに至っては、それはロータリーの話ではないとさえ思います。これがまた職業奉仕の理解を妨げます。

これに対し、鈴木一作は職業奉仕を6つの概念に分けて説明します。

- ①職業倫理＝尊敬、信頼
- ②職業＝社会への奉仕
- ③奉仕＝継続的利益きのための人間関係の基本(奉仕の理想)
- ④職業奉仕＝顧客獲得のための最善の経営方法
- ⑤職業＝天職(尊重、崇高)
- ⑥職業人としての社会奉仕

この6つの概念の仕分けのおかげで、私たちはどの部分の理解が足りないかがわかり、職業奉仕の全体像に迫ることができます。

この中の②から④はシャルドン由来なのでいろいろなロータリアンがいろんなところで語っており、通常この3つを職業奉仕の話の論拠とする場合が多いです。田中毅などはこの立場をとっています。

①と⑥については今日は触れません。一番厄介なのは⑤の職業天職論です。しかもこれがvocational service(職業奉仕)の命名由来であるのでますます厄介です。

以前、私はvocationは宗教用語であると発言しています。どうやらvocationは語源的には神の声という意味らしいのです。つまり職業は神より賜わりしもの、すなわち天職というのです。これはキリスト教の、しかもピューリタンの用語で、カトリックにはそのようなものはありません。ピューリタニズムでは本質的には、収益を目的として職業につくことも、蓄財することも認められていません。しかし、仕事に励み収入が増え、さ

らに一層精進した結果として財を成すことは容認されています。私は、職業奉仕が小難しいものとなったのは、やはり1927年のベルギー・オレスデン世界大会での「四大奉仕」の採択がきっかけだと思っています。この時、「職業は神聖な天職であり、道徳的で高潔なものであるべき」というイギリス流の考え方が色濃く反映されたと考えられます。

宗教色を排除した解釈、運用をするのがロータリーのモットーですので、職業天職論は、「強い使命感をもって、誠心誠意、自らの職業に向き合う」と理解しておけばよいかと思えます。私個人としてはvocational serviceは「職業奉仕」とはせずに、「職業人の心得」と訳しておけばよかったのに思っています。

そんな私の「職業奉仕」理解の一押しが「ロータリアンの行動規範」です。今年度の「クラブ活動計画書」の裏表紙につけさせていただいています。入り口は広く、ハードルは低いに越したことはありません。「ロータリアンの行動規範」から「職業奉仕」への理解、始めてください。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第 1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第 2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第 3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第 4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか